

### 第3回花巻市行政評価委員会会議録（しごと部会）

#### 1 開催日時

平成28年8月19日（水） 10時00分～11時30分

#### 2 開催場所

花巻市花城町9番30号 花巻市役所新館 2階会議室

#### 3 出席者

委員 6名

影山部会長、高橋勉委員、佐藤委員、箱崎委員、戸来委員、高橋セキ子委員  
事務局、施策主管課

#### 4 課題及び報告事項

##### ◆施策：移動しやすい観光地

・人気の観光スポットは？

→①宮沢賢治記念館、②高村光太郎記念館（リニューアルしたことにより来館者増）、  
③早池峰神楽、その他鹿踊などの伝統芸能も根強い人気がある。

・1市3町ごとの見どころをアピールしてはどうか。

・リピーターは把握できるか？

→7月末に満足度調査を実施している（サンプル数600）。その中に「花巻市への観光は何度目ですか？」という項目がある。一度では分からないこともあるため、何回か訪れる観光客も多い。ただし、観光統計は全国統一の基準ではあるが、1人が3か所の観光地を巡ると3人とカウントされてしまうため、リピーターのデータの取り方が難しいのが現状。

・観光地を巡りやすくなると楽しい。現状では賢治記念館は盛況だが、博物館は閑散としている。市職員も現場に行き、現状を知ることでも大事なのではないか。

・温泉への客がどこから来ているのか把握できるか。

・入湯税で来客数は分かるかもしれないが、どの地域から来ているかはわからない。

・交通アクセスについて、あったかいなはん号の料金を1,000円に値上げしたことにより、相当利用者が減ったというが、そういうものか。例えば宮沢賢治を見たくて来たという人が、500円であったものが1,000円に値上げしたことによってやめるということになるだろうか。見たければ500円であれ、1,000円であれ利用するのでは。

・観光バスの間隔が長い。1時間から1時間30分に一便くらいあればいいが。

・あったかいなはん号のルートの変更はできるか？

→決められたコースのみ。

- ・タクシーをチャーターすると、どのくらいお金がかかるか？  
→1日であれば万単位。あったかいなはん号も本当は数千円かかる。
- タクシーとバスの棲み分けが難しい。
- ・花巻は観光地や特産品など良いものが広範囲にある。早池峰神楽のバスは出ているか？  
→その時期に出ている。
- ・車で来ない遠方者や、お酒を飲む人は車を運転できないから、バスがたくさんあれば便利。難しいことは分かるが。
- ・大迫は駐車場が少ないから、車で来ても困ることが多い。
- ・バスを増便すれば良いのではないか。来てもらえればお金を使ってくれるはず。
- ・温泉バス、あったかいなはん号はどこへ迎えに来るか？  
→新花巻駅がメイン。リクエストがあれば花巻空港、花巻駅へも行く。
- ・観光客は駅に着いたとき、無料送迎バスがあることが分かるのか？  
→観光案内所がある。
- ・資料のチラシ裏「花巻まちなか散策マップ」に載っている名所が少ない。もう少しメインがあるとよい。マルカンはなくなってしまったが。
- 以前、テレビ番組で花巻の隠れた人気スポットを紹介していた。10数箇所はあったようなので、散策マップに載せてみてはどうか。
- ・最近、駅前に人が多いのはなぜ？  
→ポケモンGOの影響では？若い人にかぎらず、幅広い年代でやっている。
- ・花巻の観光地は広域のため、バスを目的債で購入して運用するなど何か考えないといけない。
- ・駅に着いたとき、黄色いパンフがあるが、使いづらい。バスの運行表などを載せてはどうか？  
→イメージマップのため、距離情報は分からなくなっている。しかし、大きい地図を作っても、広域なため使いづらくなってしまう。
- ・マップにスマホをかざすと交通手段の情報がすぐに分かる仕組みがあると便利。
- ・案内看板だが、夏になると木の葉っぱが看板を隠してしまい、見えづらくなるので管理が必要。  
→そのとおりである。レンタカーを使う観光客はカーナビを利用するから看板を目印にしている人は少ないかと思うが、なければないでクレームの対象となる。
- ・駅から温泉へのアクセスは良い。駅から観光地、観光地から観光地のアクセスに何かしら付加をしないと観光客にとってまだまだ「移動しやすい観光地」とはならないと感じる。広域だから難しいと思うが、そこをどうするかというのが新しい事業としてあるのでは。
- ・博物館など隠れた観光資源を整理し、繋げていくなどして、周遊できるようなくみを付加して、遠くでも行ってもらえるようにできないか。

- ・市職員も自家用車を使わないで実際に観光地を巡って検証しないと、不便さがわからないのでは。
- ・新しい観光資源についてアンケートで聞いてみたりして。市民アンケートでは駅西側の通りに「マグノリア通り」や「星めぐり通り」などの愛称をつけてみたりすれば若者が興味を持つのではというような意見もある。
- ・温泉が目的で、そこに泊まった人がそのついでに観光というスタンスの施策だと思う。消極的に感じる。メインは観光で、そのついでに温泉に泊まるという逆のスタンスで施策を検討してはどうか。
- ・あの温泉は熱いのが良いなど、温泉ごとの魅力を伝えてはどうか。
- ・台温泉にも寄ってもらえるような工夫が必要では。
- ・温泉以外の施設や特産品をターゲットにしてはどうかとはいうが、広域のためどうしても温泉をメインとした施策になってしまうのは仕方がない。
- ・観光目的で市内のホテルに泊まった人が何人いるか分からない。
- ・お菓子屋も結構ある。タナカのサブレ、羽山まんじゅう、べっ甲せんべい、つけものなどそれぞれ特徴があってオリジナルのものがあるが、知られていない。BBフェアでもそれらのお菓子屋は出店していない。
- ・お土産をリスト化して宣伝し、観光と地場産品をつなげたい。チラシにあった「まちなか散策マップ」でお土産を紹介するとか。観光客は観光しに来たら、何かお土産を買って帰るもの。
- ・成果指標「観光循環バス等の利用者数」の達成度がAであることは良いと思うが、トータル的でない。事業が少ないと思う。さらに伸ばすために第2期中期プランでは新しく、又は付加した事業を実施してほしい。
- ・高校生などの感性を入れると、市では気づかないこともあるのでは。
- ・高校は市街地から離れているため、平日に街中にいないのはあたりまえである。休日に市街へ行きたくなるようなアイデアを高校生に聞いてはどうか。(高校生のワークショップとか)
- ・観光と地場産材を組み合わせる6次産業化により、地場産業の振興に結び付ける。
- ・観光地間の移動、隠れた観光資源の発掘により、街中への誘客を進める。
- ・温泉だけでなくその他の観光地へ行ってもらえるような取り組みを。
- ・各温泉の特徴が分かる案内を。
- ・地場産品を観光地と結びつけるルートの検討を。
- ・温泉と宮沢賢治以外の目玉を。

#### ◆成果指標について

- ・成果指標の設定については適切であるが、数値の大半は到着駅から宿泊先の温泉への移動のものであり、宿泊地から観光地、観光地から観光地への移動についても把握できた方が施策の分析、検証につながるのでは。

◆施策を構成する事務事業について

- ・「みちさき案内推進事業」によるサイン設置は、カーナビの利用が増えている状況であっても貢献していると考え。ただし、この完了したので、更なる成果向上のためにも新たな事務事業を考えてほしい。
- ・「観光ルート整備事業」は団体旅行から小規模旅行へ形態が変化していることに伴い、1台あたりの乗車数は減少しているものの、観光客の利便性の向上には貢献しているといえる。
- ・主なルートは駅から宿泊地、宿泊地から主たる観光地であるが、観光地から観光地のルートを視野に入れるべき。
- ・市内の特産品、名品、地場産品をめぐるルートの開発なども行ってはどうか。

◆施策の総合的な評価について

- ・課題の認識と方向性についてはその通りである。観光の発展は地域の活性化にもつながることから重要。「利用者ニーズを反映した」という記載にもあるように、ターゲット別の対応を考えてもらいたい。

### 第3回花巻市行政評価委員会会議録（暮らし部会）

#### 1 開催日時

平成28年8月17日（水） 午後1時30分～3時10分

#### 2 開催場所

花巻市花城町1番47号 生涯学習都市会館（まなび学園）3階 第3学習室

#### 3 出席者

委員 6名

鈴木部会長、高橋委員、吉田委員、尾美委員、福盛田委員、木村委員  
事務局、施策主管課

#### 4 課題及び報告事項

##### ◆施策：循環型社会の構築

- ・成果指標「市民一人当たりの一般廃棄物排出量（家庭系）」について、県や北上市の数値より高い数値（164.9kg）で目標値としているが、何か理由があるのか？  
→県は163.4kg、北上市は136.3kg。北上市の場合はごみ袋の有料化に取り組んでいるが、このことも要因となって、一人当たりの一般廃棄物排出量が少ないのではないかと考える。当市はまだ一人当たりの一般廃棄物排出量が多い状況。ゴミが減らないようなら、将来的に当市もごみ袋の有料化を進める可能性もあることを市民説明会の際に話している。
- ・家庭系一般廃棄物のうち、生ゴミが多いとの説明があったが、理由はなにか？ 買すぎとか？  
→生ゴミが多いというのは、水を切らないでゴミに出すことで重くなるという意味。水を切ってから出してもらえればゴミの重量が減る（結果、一般廃棄物排出量も減るということ）。
- ・再資源化推進事業の活動指標である資源回収登録団体が減っているが要因は？  
→少子化の影響もあってなのか、子供会の登録団体が減った（自治会への統合）の  
が一つの要因。あとは、小学校が団体登録しているケースがあったが、登録により  
交付されるリサイクル奨励金を小学校が貰うのは如何なものかとの意見があり、  
小学校の団体登録を外したことも要因の一つである。
- ・再資源化推進事業にある、大迫地域での生ゴミの堆肥化だが、他の地域に普及さ  
せる計画とかはないのか？  
→大迫には旧大迫町が設置した堆肥製造施設（現：うしちゃんファーム所有）があ  
り、そこで生ゴミを堆肥化できる。これを市内全域に広める取り組みは、輸送コ

スト等、費用対効果の面で難しい。

- ・不法投棄防止事業で監視カメラを5台設置したとのことだが、設置により不法投棄者を検挙した例はあるか？

→ない。カメラ設置の意図は「不法投棄の抑止」であり、不法投棄者を捕まえるのが目的ではない。

- ・不法投棄される場所は決まった場所か？

→多いのは台温泉付近。平成28年度は重点的にパトロールすることとしている。

- ・不法投棄の内容は？

→農機具やタイヤなど。投棄して身元がバレるようなもの（医薬品など）はない。

- ・さらに成果の向上を図る事業として、生ゴミの減量に取り組むモデル地区の実態調査を考えているとのことだが、どのような内容か？

→生ゴミを水切りした場合、しない場合の比較等を行っていただければと思っている。

- ・ごみ処理事業にある花巻温泉郷廃棄物処理組合補助金だが、ごみの処理は企業が当然に行うことであり、特定の団体に補助金を交付することに問題はないのか？

→温泉に宿泊する人が入湯税を納め、市に入湯税が入る。温泉のゴミは宿泊する人がいることで出るもの。このことから入湯税を充てて補助しているもの。

- ・宿泊客から貰う料金の中からゴミ処理経費をねん出すべきではないか。

#### ◆成果指標について

- ・施策の目指す姿に沿った指標。
- ・一般廃棄物のリサイクル率の目標値は高すぎないか？途中で変えられるものか？

→毎年度見直しを行うものではないが、本年度見直しを行うこととしている。

- ・リサイクル率を目標とした場合、市民がスーパーヘトレイを持ち込むなど民間業者が行っているリサイクルもあるが、こういったものも把握する必要はないか？

#### ◆事務事業について

- ・ごみ処理事業の成果指標「ごみの排出量」については、生ゴミの水切りを周知徹底することで少しでも改善されるのではないか？また、水切りの周知だけでなく、買いすぎ抑制（の周知）に取り組むことも重要ではないか？

#### ◆施策の総合的な評価

- ・問題等なし

#### ◆記載内容について

- ・成果指標設定時に、県と北上市の数値を参考としているが（成果指標根拠シート参照）、もっと他の自治体のデータも示してほしい。クリーンセンター利用構成市町のデータはあってほしい。

### 第3回花巻市行政評価委員会会議録（人づくり・地域づくり部会）

#### 1 開催日時

平成28年8月17日（水） 午後1時30分～午後3時20分

#### 2 開催場所

花巻市花城町1番47号 生涯学習都市会館（まなび学園） 3階第4会議室

#### 3 出席者

委員 4名

堀籠部会長、小山田委員、佐藤委員、板垣委員  
事務局、施策主管課

#### 4 課題及び報告事項

##### ◆施策：公益的活動への支援

・コミュニティ会議のような組織は「ボランティア団体」に該当しないのか？

→地域づくり交付金の対象となっているため、市民団体等活動支援事業補助金の対象ではない。精神論的には「ボランティア団体」であるが…。

・「ボランティア団体」の定義は？まちづくり市民アンケートの解釈が人によって異なるのではないかと判断する。無償で活動する慈善団体等を「ボランティア団体」と考える人は参加していないと判断する。一方で、広義ではコミュニティ会議の活動も含まれると解釈できるとすれば成果の実績値が変わってくるのではないかと？

→成果指標の「ボランティア団体」の定義については、内部でもアンケート回答者によって解釈が異なることが問題視された。

・成果指標の達成度がDとのことだが、実感としては、コミュニティ会議の活動により公益的活動の裾野は広がっていると思うのだが…。

・市民団体等活動支援事業の予算はいくらか？

→30万円（上限）×10団体で300万円。上限額まで補助している団体ばかりではない。

・1団体で複数事業実施した場合、合計で上限30万円まで利用できるのか？

→1団体1事業までとしている。

・施策を構成する事務事業の2つ目「ボランティア団体やNPO法人等に関する情報発信」については予算なしか？

→ホームページや広報掲載に係るものであるため、当課においては予算措置なしである。

・補助を受けた団体が自分たちの活動状況を発信しているか把握しているか？

→追跡調査はしていない。

- ・市が補助事業の事例紹介をするだけでなく、補助を受けた団体が自分たちで活動を発信しないと広まらないのではないか？市の広報だけでは限界がある。

→補助制度の設立当初は資金不足の団体の支援を目的としていたが、実際のところ、単発事業への補助になってしまっている。その単発イベントの周知はなされているものの、団体自体の情報発信は不十分な状況となっている。

- ・実際は、特定の団体のイベントへの補助になっているようだが、「事務事業評価シート」の意図「市民が行う公益的活動を支援することにより、市民団体等を守り育てる」に繋がっているのか？各イベントに公益性があるかきちんと説明できないと補助の意味がない。検証の仕方はどうなっているか？また、団体の要件は？

→公益性については、市内の広範囲に受益があること＝少なくとも1つの振興センターの範囲を基準としている。また、団体については、その存在が明らかであり、市内を拠点に活動していること、この補助を受けるために結成した団体でないこと、政治・宗教活動でないこと等を要件としている。

- ・成果指標の達成度の要因分析によると、あくまで補助制度の周知不足が要因で、新たに取組む事業はないということか？

→この施策の中では、予算措置をして実施する事業は考えていない。

- ・H26、H27 と連続して補助を受けている団体があるが、補助金が十分に周知されていなかったということにならないか。新しい団体が増えるようだと成果が上がるのではないか。

#### ◆成果指標について

(成果指標の項目は、施策の目指す姿に沿っているか。)

(ほかに考えられる指標はないか。)

- ・アンケートの回答者ごとに「ボランティア団体」の解釈が異なるため、このままの指標を使い続けるのであれば、アンケート設問中に「ボランティア団体」の定義や事例を示す必要がある。仮にコミュニティ会議の活動も含むのであれば、成果がもっと上がるはずである。また、施策名のなかの「公益的活動」という語句も抽象的で分かりにくい。
- ・アンケートに「コミュニティ会議の活動を含む」と一言あれば済むのではないか。
- ・成果指標の項目は施策の目指す姿に沿ってはいるが、アンケートの聞き方に工夫が必要ということ。
- ・アンケート結果は受動的な指標であり、聞き方で誘導できてしまう。補助事業を活用した団体数も成果指標とすべきではないか。

(目標値の設定は適切か。)

- ・聞き方ひとつで結果が変わってしまう指標を使っている。目標値が適切かどうかは判断できないが、(ボランティア団体等に参加した市民の割合を) 少しずつ増や

していくことは妥当である。現状を踏まえ、かい離が大きい場合は目標値の見直しが必要である。

(成果指標の状況についての的確な分析を行っているか。)

- ・成果指標の達成状況についての的確な分析を行っているとは言えない。制度の周知が足りなかつただけでは説明できないのではないか。
- ・(ボランティアの) 中間支援組織が機能していないように感じられるので、中間支援組織の育成・支援が必要である。また、補助制度については、役所内部の研修だけでなく、外部向けの説明会を実施すべきである。(→②に関連)

◆施策を構成する事務事業について

(施策を構成する事務事業は相対的に必要十分で過不足のないものになっているか。)

- ・不足している。団体向けの説明会の開催が必要である。
- ・「施策評価シート」の「6 施策の総合的な評価」に記載されている「資金不足等で活動が停滞している団体を掘り起し、」そのものが、「5 施策を構成する事務事業の検証」の「(新たに取り組むべき事業)」なのではないか。掘り起しの方法としては、「施策評価シート」の「6 施策の総合的な評価」の「(今後の方向性)」に記載されているように、ボランティア団体やNPO法人の総会の席上でPRすることが考えられる。
- ・そうであれば、団体の掘り起しの実績も成果指標になるのではないか。
- ・補助金を支出して支援したことと、説明会を開催してチャンスを与えたこと、両方の取組が見えるようにすべき。

(目指す姿の実現に貢献している事業か。)

- ・補助制度自体は目指す姿の実現に貢献しているが、補助事業の中身を個別に見ると疑問を感じるものもある。
- ・補助の結果、活動への参加者の裾野が広がっているのかが見えてこない。
- ・補助事業への参加者数を示せばよいのではないか。今回添付資料の「花巻市市民団体等活動支援事業一覧」に事業への参加人数を追加すべき。(→④に関連)
- ・お金を出す→市民の意識高揚というのは違うような気がする。お金を出しても成果が得られていない。成果に直結する事業になっていないので貢献していないのではないか。
- ・他にやるべき事業があるので、現状では貢献できているとは言えない。
- ・補助事業ごとの公益性を追求していけば良いのではないか。

(市民ニーズや社会情勢の変化により、市の関与の必要性が低下した事業はないか。)

- ・ない。市の関与の必要性は低下しない。

(施策の目指す姿を実現するために、さらに成果の向上を図る事業はないか。)

(他に考えられる事業はないか。)

- ・補助制度について、総合支所単位での団体向けの説明会の開催が考えられる。

- ・(ボランティアの) 中間支援組織の強化・育成支援が必要である。お金を出すだけでなく、人材育成が必要である。

◆施策の総合的な評価について

- ・内容が薄い。
- ・この施策のワク内だけで考えると、この評価で十分である。しかし、この施策を広く考え、関連する活動を視野に入れて、課題を整理して評価すべきである。
- ・「地域おこし協力隊」の目的は、本施策である「公益的活動への支援」と考えられるので、協力隊員に補助制度の説明会をやってもらっても良いのでは？

◆シート記載内容について

- ・「花巻市市民団体等活動支援事業一覧」に補助事業参加人数を追加する。
- ・市内のNPO法人数などの情報も記載した方が良い。

## 5 【その他】

次回以降の施策の成果指標は、市民アンケート結果ではなく、岩手県学習定着度状況調査結果等を利用している。

市民アンケートは、事前に配布されていたので、岩手県学習定着度状況調査結果等についても、科目ごとの結果など成果指標の元データを確認するために、事前に配布していただきたい。